

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所	丹波市立市島中学校	研究グループ名	63
属・職・氏名	教諭 高松 昭彦	学びの授業づくり研究会	

研究テーマ分類番号 (19)

(1) 研究テーマ

- ①「学び」＝協働（協調）学習ととらえ、グループの学びにより学習者の内的な論理操作ができる教科の授業デザインを考え、その実践方法を検討する。
- ②その際、外部研究者と協力し、学習科学の知見を取り入れる。
- ③若手及び中堅教員の対話的相互作用により授業を複数の視点から多角的・多面的に検討し、熟達化の過程をふまえ、学びを中心とした授業づくりの実践力向上をめざす。

(2) 研究経過及び具体的な取組

【事前に】

- 東京大大学院教育学研究科准教授と最近の研究動向や授業改革についての意見交換。
- 日本教育心理学会における自主企画の可能性や授業づくりの課題等について意見交換。
- 校内授業研究で協働学習をとり入れるための学習科学の関連文献・論文を参照。
研究の方向性と題目の決定、予算の作成。研究参加の案内をメール及び電話、直接出会い、連絡し了承を順次得る。メーリングリストの作成。
- 研究者と日本教育心理学会における自主企画シンポジウムの連携の確認。
校内の授業づくり支援の方法についての大枠で合意。
メールによる意見交換と内容の検討。
11月のシンポジウムの原稿作成と学会事務局への提出。
校内授業公開に向けた組織づくりの原案を作成。その後、校内の研修に関する基本的なレジュメの作成。
研究会の参加メンバー相互とメールで情報交換を行う。
- 校内研修委員会の開催で校内授業研究の方向性を了承。また外部研究者と連携することを了承。その後、職員会議で研修テーマと学力向上に関する授業づくりを提案了承。
この間に丹波市教委「学力向上具現化プラン」の提出し協働学習を取り入れる方向でプランに反映さす。

6月13日

校内授業公開 理科（1年生）参加12名 数学（1年生）参加5名 授業検討会
参加は当該学年及び教科を中心として市内理科教諭も 7名参加 市島中
事後の授業検討は教師が個別に研究者と面談し自由に話し合う方式を採用。

7月11日

英語1年生の校内授業公開 参加 東京大准教授 市教委指導主事 ほか8名
ビデオ記録 市島中 ビデオ記録により今後の授業検討会の参考にする。のちに研究者が

分析し授業研究の方法を検討しシンポジウムに活用。

7月22日

「北近畿学びの会」で7月11日の英語の授業ビデオ検討会 参加

兵庫県教諭と京都府教諭 6名 綾部市民会館

授業ビデオから気づく協働学習の問題を事前に協議し、25日のカンファレンスにむけて話題を焦点化する。

7月25日

7月11日のビデオカンファレンス 英語科を中心に実施 参加

東大准教授 教諭6名 市島中

7月27日

「学びの共同体」関西大会 会場設備・役員で出席。全体会500名

池田市伏尾温泉・伏王閣 高等学校数学の授業に関する部会に参加 15名

ビデオ授業に関する多面的な見方についての意見交流。特に数学の3つの解法に至るグループのプロセスを中心に議論。

8月1日

7月11日の英語のビデオカンファレンス 小学校教諭1名 本校校長 ほか5名
授業分析を教師の自由談話により記録 市島中

8月5日

県内高校教諭2名 大阪府私立高校講師1名 ほか1名

パナソニック本社にてタブレットによる授業改革について担当社員と意見交流

先進事例の紹介ビデオや授業事例を見る

8月13日

フィンランド（ヘルシンキ郊外）の小中学校の校内及び授業見学。日本の歴史と文化について高校授業1コマに参加

9月26日

2年生 理科授業公開 3年生 家庭科授業公開 この日は研究者による授業参観のみ
事後に指導教諭と研究者の懇談 市島中

また柏原高校の授業改革にむけて担当教諭と情報交換を始める。

9月27日

大阪府池田市石橋中学校へ体育祭の見学と池田市教委指導主事と意見交換 石橋中

10月4日

学び教育フォーラム 「授業デザイン」の話題提供と司会 40名

大阪・梅田第3ビル 大阪産業大学梅田サテライト

10月7日

池田市立石橋中学校 道徳授業公開に出席 100名程度 石橋中

10月26日

星城大学特任講師と池田市内で研究の方向で意見交換

この間11月の学会発表に向けて原稿とパワーポイント作成、研究者とメールで連絡調整。

11月8日9日

日本教育心理学会 第56回総会 自主企画シンポジウム 「中等教育における授業づくりの課題と支援～」発表 東京大大学院教育学研究科准教授 星城大学特任講師 20名

神戸国際会議場

11月20日

道徳 副読本 心かがやく「事典を作った人 下中弥三郎」「わからないことの大切さ」を教材に「学ぶ意味を考えよう」を2年生教師と共同立案し授業実践 協働学習を視野に入れてグループをいれて授業を作る 2年生3クラスで実践

11月22日 100名以上 池田市立石橋小学校 授業公開に参加

協働学習の授業方法に関して協議 6年生の算数「速度」の授業は協働学習のモデルになる授業という点で学ぶところが多い 石橋小

同日夜 大阪・梅田で「学び教育フォーラム」のシンポジウム運営について打ち合わせ。

幹事会7名

11月21日 12名

兵庫県立柏原高等学校「学力向上推進プロジェクト事業」授業研究会

柏原高校教諭「南アジアの工業」グループ学習についての助言

東京大准教授 講演 兵庫県立柏原高等学校

12月12日

道徳「NHK ビデオ なぜ僕は止められなかったのか～いじめによる自殺」を視聴ののち、クラス討議によってグループによる討議を含む授業の立案の実施 2年生3クラス

12月13日 89名 学び教育フォーラム「教員の質向上の保障」運営

(文科省 大阪府教委 柏原市教委 東大阪市教委 大阪教育大学ほか後援)

学習院大学教授 大阪大学名誉教授 文科省課長 府立高校教頭

大阪 阪大中之島センター 佐治敬三メモリアルホール

(成果と課題)

学びや協働学習による授業改は、次の学習指導要領の改訂においても重点内容として協議されている。また、OECDや東アジア諸国においては協働学習が主流になっている。黒板とチョークによる授業(talk & chalk)はもはや20世紀型であり、知識基盤社会に対応した

授業ではない。

しかし、中等教育では一斉学習の伝達型が多く、学びの主役である生徒の学びの方法やグループ学習の導入は進んでいないのが現状である。また、中等教育段階における授業公開による授業改革は、先進的に実施されている学校と、そうでない学校で格差があり、学力向上の調査においても格差を生み出している可能性が指摘されている。

学校で授業開発が遅れる理由として、時間制約と方法や理論上の不備や教師の意識、モチベーションなど複合要因が考えられる。そこで、本校をモデルにして、事前に研究者と方向性を検討し授業づくりを支援する方法を志向した。その際、本校以外の学校教諭による助言をいれた。

今回の成果は、

- ①研究者とともに授業改革を志向したこと
- ②本校以外の外部の教師の助言や支援を各段階で受けたこと
- ③校内授業研修を位置づけたこと。
- ④その成果を日本教育心理学会の自主企画シンポジウムで実施したこと。
- ⑤大阪府や京都府など近隣の多くの授業実践から示唆を得られたこと。

また、「学び教育フォーラム」の例会で発表し情報交換できたこと

- ⑥関西地域で協働学習の広がりを確認できたこと である。

一方課題として、組織全体で取り組む学校では学力が向上している点を踏まえて、組織的に授業実践できることが重要になる。しかし、

- ①学校全体で取り組むには時間的制約や組織上の課題があること。
- ②授業公開の方法を組織全体で検討できるよう定例化した委員会が必要と思われること。
- ③このため、教師共通の課題設定をできるだけミクロにしたものに焦点を当てたほうが実践上有益であること。

などである。

なお、授業の分析等については、データではなく質的分析によった。学会発表の原稿は

<https://confit.atlas.jp/guide/event/edupsych2014/subject/JF05/classlist>

学び教育フォーラムについては <http://manabi-edu.org/manabi-edu/>